

■編集後記

2013年度は、センター共同研究第二期のまとめの年度になり、本号ではまず各班の活動報告を載せました。第1班B『『日本近世生活絵引』奄美・沖縄編編纂共同研究』班の『日本近世生活絵引』奄美・沖縄編は、別刷りで成果報告が刊行されます。第3班の「海外神社跡地から見た景観の持続と変容」研究班も、独立した成果報告を準備しています。本号では、第2班「東アジアの租界とメディア空間」研究班の論文が3本と、第4班「水辺の生活環境史」研究班の報告が5本、そして第5班「非文字資料の効率的な検索と安全な流通」研究班の報告が共同で1本載せられています。この部分だけでも分量が多くなっています。

その他に、個人研究論文として11本あります。その中でも海外提携機関から寄せられた論考が、中国語、韓国語、そして英語と仏語という具合に、国際色豊かな内容となっています。

さらに、2012年度奨励研究成果論文が5本あり、合計25本の論考が寄せられています。大変厚い年報になり、本センターの共同研究や研究協力が、提携機関を中心に広がっていることを示しています。

2014年度からはセンター共同研究の第三期に入り、研究グループの若干の入れ替えがあります。その共同研究を中心に、非文字資料研究の学内外の連携がますます拡充していくことを期待しております。(小熊)

■表紙説明

本号の表紙は、名護博物館所蔵の『琉球島真景』を使わせていただきました。本センターの共同研究成果である『日本近世生活絵引』奄美・沖縄編が今年発刊されましたが、そこでは琉球の近世絵画である『琉球交易港図屏風』と『八重山蔵元絵師画稿』、そして奄美の民衆の生活を描いた『琉球島真景』が掲載されています。前2者は、すでに年報8号と9号の表紙でも使わせていただきました。

『琉球島真景』は、200年以上も前の奄美の生活が描かれており、表紙は大和相撲の様子が描かれています。奄美では、八月十五夜あるいは九月九日のアラセツの時に相撲大会が行われていましたが、この図には薩摩の役人が散見されるので、薩摩の地方役人による人口戸数調べが終わった後の大祝宴の余興としての相撲大会である可能性もあります。観客は、酒瓶を持って飲みながら見物したり、また太鼓やホラ貝で応援したり、賑やかな様子がいきいきと描かれています。

裏表紙は、種付け用の黒豚を連れた母子の様子と、製糖のための砂糖車を馬にひかせている様子のカットを使用しました。いずれも、当時の人々の様子が手に取るようにわかる絵です。

これらの絵に名称や解説をつけていく作業を、歴史学と民俗学の協働で「絵引」にまとめました。これも、非文字資料研究センターの重要な研究の一部です。ご紹介のために、表紙で使わせていただきました。

末筆になりましたが、『琉球島真景』の一部を表紙に使用することを許可いただいた名護博物館に深く感謝いたします。(小熊)

年報 非文字資料研究 第10号

The Annual Report: the Study of Nonwritten Cultural Materials No. 10

発行日	2014年3月20日
編集・発行	神奈川県立 日本常民文化研究所 非文字資料研究センター
	〒221-8686
	横浜市神奈川区六角橋3-27-1
	http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/
印刷	株式会社 精興社
雑誌コード	ISSN 1883-9169